

35	学校名 県立山口高等学校	課程 全日制	学科 普通科	指定期間 1年
----	-----------------	-----------	-----------	------------

平成29年度 高等学校における特別支援教育推進のための拠点校事業 実施報告書（成果報告書）（要約）

1 研究開発課題

「高等学校における通級による指導」の導入に向けた、「特別の教育課程」編成の検討、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業改善等を通じた、個々の能力・才能を伸ばす指導の充実に関する研究

2 研究の概要

高等学校において、障害による学習上又は生活上の困難の改善又は克服を目的とする自立活動が実施できるよう、「特別の教育課程」の編成に関する検討とともに、障害のある生徒の主体的な取組を支援するという視点に立ち、その持てる力を高めることができるようユニバーサルデザインの考え方を生かした授業を通じて、個々の能力・才能を伸ばす指導の充実に関する研究を実施し、高等学校における特別支援教育の充実を図る。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究開始時の現状分析と研究の目的

全日制の普通科は、文武両道の校風もあり学校全体が非常に落ち着いた雰囲気となっている。こうした中、社会生活上や対人関係に困難を抱える生徒も、落ち着いた雰囲気の中で、大きな支障もなく学校生活を送っていることから、困難を見過ごされたまま卒業していくケースもある。

定時制や分校については、多様な困難を示す生徒が入学するが、障害特性だけでなく、家庭環境や経済的な問題、いじめや不登校などの経験、前籍校でのつまずきなど困難の要因が複雑化していることがある。

また、通信制課程においては、発達障害に起因する不適応により他校から通信制の課程に転編入するケースがある。

このように、学科や課程によって、在籍する生徒の状況が異なるが、特別な教育的支援を必要とする生徒のニーズが多様化する中で、多様な学びの場が求められていると考える。

本研究では、平成30年度からの「高等学校における通級による指導」の制度運用開始に向けて、「通級による指導」を必要とする生徒が適切な指導・支援を受けることができるよう、学科や課程を踏まえた「自立活動」の指導内容や指導方法、評価等について検討する。

また、全ての生徒が「わかる、できる」を実感できるよう、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた指導・支援の工夫により、授業改善を図るなど、生徒個々の能力・才能を伸ばす指導を実践することを目的とする。

(2) 研究仮説

以下の①～④の項目について、研究を進めることにより、「高等学校における通級による指導」への円滑な対応と、障害のある生徒の自立と社会参加を支援する、きめ細かな指導・支援の展開が可能となる。

- ① 特別支援教育対象者の判断及び「通級による指導」開始及び終了までのシステムの明確化
- ② 「自立活動」の指導内容や指導方法、評価方法、単位認定等の検討
- ③ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の効果的な活用
- ④ ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業実践及び授業改善

(3) 必要となる教育課程の特例

教育課程の特例を設けず、放課後など授業以外の時間帯において、特別支援学校の指導領域である「自立活動に相当する指導」の内容等を踏まえて実施。

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
教育課程外において、特別支援学校の指導領域である「自立活動に相当する指導」の内容等を踏まえて実施	<ul style="list-style-type: none">・ スケジュールリング・ 認知トレーニング・ ソーシャルスキルトレーニング・ ライフスキルトレーニング	週1時間程度

(4) 研究成果の評価方法

「校内研究推進委員会」において、以下の4点について振り返り、その結果をもとに有識者や関係機関、県教委で構成する「運営協議会」が評価を行う。

- 特別支援教育を推進する校内体制が構築できたか。
- 学科や課程を踏まえた、通級による指導の指導内容、指導方法、評価、単位認定等が明確になったか。
- 生徒の実態把握及び「通級による指導」開始及び終了までのシステムが明確になったか。
- 関係機関等との連携体制は構築できたか。

4 研究の経過等

(1) 取組の内容

- ① 生徒の実態把握について
 - ・ 出身中学校等とのケース会議
 - ・ 個別の教育支援計画
 - ・ 保護者との面談
 - ・ 授業や登下校中の様子の観察
 - ・ 担任や授業担当者の気づき、会議での共有
 - ・ 生徒本人からの訴え
 - ・ 複数の教員によるチェック体制

- ・ チェックリストの活用
- ・ 段階を踏んだ複数のチェック体制
(例) 担任や教科担当➤他教科担当➤校内 Co➤地域 Co➤校内委員会 等

② 指導内容について

- ・スケジューリング
- ・作文指導を通じた文章による自己表現の仕方
- ・リーディングルーラーの活用による読み場面の集中持続トレーニング
- ・認知トレーニング
- ・ソーシャルスキルトレーニング
- ・自宅の部屋の構造化の提案、実施の支援

・生徒の状況に応じた自立活動
(例) ライフスキルトレーニング、ソーシャルスタディ、心理学 等

③ 実施形態について

- ・放課後や夏季休業中を利用した個別指導
- ・ティームティーチングによる通常の授業中の個別支援

・自校通級（教員配置）、自校通級（教員の巡回）等
・選択科目、7限目の取り出しの指導、長期休業等

④ 単位の認定・学習評価について

- ・単位認定はしない
- ・個別の教育支援計画の作成・活用、改善
- ・提出物や文字の書き方の改善

・個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成・充実、指導の評価等

⑤ 判断手続きについて

- ・個別の教育支援計画の有無
- ・担任や教科担当の気づき把握
- ・保護者からの相談
- ・生徒との面談による聞き取り
- ・チェックリストの活用
- ・スクールカウンセラーからの要請
- ・教育相談担当からの気づきと要請

・対象生徒の決定までのシステム
・チェックリストの活用
・段階を踏んだ複数のチェック体制
(例) 担任や教科担当➤他教科担当➤校内 Co➤地域 Co➤校内委員会 等

⑥ 指導体制・校内体制について

＜指導体制・校内体制＞

- ・実践研究担当2名と事業スタッフ3名計5名による指導
- ・通級担当は独立した分掌により他分掌と連携を行う。

＜関係機関との連携＞

- ・医療機関との連携
- ・ふれあい教育センターとの連携
- ・市子ども家庭課や児童相談所との連携
- ・SSWとの連携

(2) 委員会や検討会、ケース会議、研修等

月日	会議等	概要について簡潔に記載（講師がある場合は講師名）	
4	20	第1回生徒情報交換会	・生徒情報の共有と気づきについて
	21	徳佐分校 保護者懇談 生徒個人懇談	・保護者の願い聴き取り ・本人の願い聴き取り
	24	中学校ケース会議	・「個別の教育支援計画」を有する定時制入学生徒の引継ぎ
5	22	第2回生徒情報交換会	・生徒情報の共有と気づきについて
	31	事前担当者会議	・事業スタッフと管理職による事業内容と概要確認
6	5	定時制サポート会議	・情緒面で課題のある生徒について
	14	第1回担当者会議	・高等学校における特別支援教育推進事業の担当者について
	18	通信制体育授業支援	・脳性麻痺のある生徒の授業支援
	21	第3回担当者会議	・第1回校内推進協議会の内容について ・個別の教育支援計画作成手順について
	22	第3回生徒情報交換会	・生徒情報の共有と気づき、具体的対応について
	23	徳佐分校 特別支援教育巡回、ケース会議	・支援が必要と思われる生徒について、4月からの状況説明 ・1年授業参観（世界史） ・ケース会議
	28	第4回担当者会議	・「山高版支援計画作成マニュアル」作成の検討 ・各種手帳について ・分校での特別支援教育巡回訪問について
7	10	第4回生徒情報交換会	・生徒情報の共有と気づきや具体的対応について ・スクールカウンセラーとの協議
	11	徳佐分校ケース会議	・保護者への対応と今後の指導・支援の方向性
	13	第5回担当者会議	・第1回校内推進協議会の内容について ・分校ケース会議報告 ・定時制ケース会議の内容、進め方について
	14	徳佐分校ケース会議	・生徒の具体的指導について
8	9	「生徒一人ひとりの能力・才能を伸ばす実践研究事業」に係る第1回校内推進委員会	・本研究の取組について ・通級の取組について ・山口高校の年間計画 ・協議題「定時制の課題分析をともに、今後の取組内容について」
9	6	定時制職員研修	・学习上、生活上課題のある生徒の発達特性について
	7	第4回生徒情報交換会	・生徒情報の共有と気づき、具体的対応について
	8	在校生卒業校にてケース会議	・個別の教育支援計画等に関する情報交換
	13	第6回担当者会議	・今後の通級の取組案について
10	11	第7回担当者会議	・職員研修の内容について ・個別の教育支援計画について
	19	第1回校内研修（全定通）	・事業内容について ・現在の実施状況について ・発達障害とは
	23	第5回生徒情報交換会	・生徒情報の共有と気づき、具体的対応について ・スクールカウンセラーと協議および情報交換
11	8	第8回担当者会議	・第2回校内推進協議会について ・拡大担当者会議について
	17	定時制サポート会議	・学校不適応感のある生徒についての指導の方向性
	28	第6回生徒情報交換会	・生徒情報の共有と気づき、具体的対応について
	29	第9回担当者会議 （拡大担当者会議）	・来年度の「通級による指導」について教務部と協議
12	13	第10回担当者会議	・来年度の職員校内研修や講演会について ・第2回校内推進協議会について内容検討
	26	「生徒一人ひとりの能力・才能を伸ばす実践研究事	・今年度の取組と来年度の取組について ・実践研究3年間の見通し

		業」に係る第2回校内推進委員会	・「山高版支援計画作成マニュアル」今年度作成内容 ・協議題「対象生徒の認定や通級による指導の実施に関わる委員会や会議の設定について」
1	12	生徒対象講演会	・演題「関係性と、性の関係」
	17	第11回担当者会議	・第2回校内推進協議会について内容確認 ・来年度通級対象生徒について
	22	第7回生徒情報交換会	・生徒情報の共有と気づきや具体的対応について ・スクールカウンセラーと協議および情報交換
	31	第12回担当者会議	・通級対象予定生徒について経過報告 ・校内研修会内容について
2	1	第2回校内研修（全定通）	・事業の今年度の取組内容と来年度の取組について ・発達の凸凹による生徒の「困難さ」とは
	8	第8回生徒情報交換会	・生徒情報の共有と気づき、具体的対応について ・来年度通級対象生徒について説明
	8	全日制教員による第1回研究授業、協議 （10年研対象教員）	・山口高校における「授業のユニバーサルデザイン化の推進」（理科） ・ユニバーサルデザインの視点の取り入れ方について
	14	全日制教員による第2回研究授業、協議 （10年研対象教員）	・山口高校における「授業のユニバーサルデザイン化の推進」（理科） ・アクティブラーニングの手法と主体的・対話的な学びについて
	14	第13回担当者会議	・通級実施に関わる教育課程について ・通級対象生徒、保護者への説明事項について
	15	第3回教育相談委員会 特別支援校内推進委員会	・平成29年度教育相談活動報告 ・平成30年度教育相談推進計画（案）について
	21	第14回担当者会議	・来年度の実施について（各課程の様子を踏まえて） ・具体的な書類検討
	22	市内小学校訪問	・来年度通級対象生徒の情報交換
	27	市内中学校訪問	・来年度通級対象生徒の情報交換
3	14	第15回担当者会議	・来年度の校内体制について
	21	第16回担当者会議	・入学生徒についての引継ぎの仕方について ・来年度の校内研修について

（3）評価に関する取組

- 学識経験者の参画による校内推進協議会により、今年度の取組と成果・課題等について協議
- 有識者や関係機関、県教委で構成する「運営協議会」において、実践研究校の取組の成果と課題、県の施策等について協議

5 研究開発の成果

（1）実施による効果

＜生徒、教職員、保護者等の意識への効果や学校運営への効果＞

- ・「通級による指導」を試行的に実施し、円滑な導入に向けた検討を実施
- ・チームティーチングによる学習場面での丁寧な寄り添いと、学習の仕方の提示により、意欲的に学習に取り組む生徒が増えた。
- ・「音読がとても上手になった。」など、ストレートな表現で生徒に良さを伝えるなど、教員のプラスの言葉がけが増えた。
- ・授業プリントの文字の大きさや、テストのレイアウトの工夫をする教員が増えた。
- ・板書の文字を大きくしたり、板書計画を工夫したりするなど、丁寧にかつはっきりと分かりやすく書くことを意識するようになった。
- ・生徒の理解度に合わせて、授業の進み方を工夫しようと試みる教員が増えた。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

① 教育課程の編成

授業時間以外や長期休業期間に「通級による指導」を実施することにより、生徒の心情等に配慮して柔軟に実施することができるが、学校行事等の影響による授業時間数の確保が今後の課題である。

② 生徒や保護者への理解促進

通級指導に関する制度運用開始に向けて、円滑に実施できるよう対象となる生徒以外の生徒や教職員への理解を一層促進し、生徒の心情等に配慮しながら進めていく必要がある。

(3) 次年度に向けた準備状況

- ① 教育課程に「加える形態」として、単位認定を週1単位時間通年1単位で実施予定
- ② 生徒の実態把握から、独自のチェックリストを作成し、実態把握を他の教員とも共有するとともに、「見立て」の視点を共有
- ③ 生徒支援部を新たに立ち上げ、その分掌内に通級指導担当を配置し、他分掌との円滑な連携を実施
- ④ 校内コーディネーターを、可能な限り各課程（全日・定時・通信・分校）に配置。
- ⑤ 「通級による指導」内での小集団による指導を実施予定
- ⑥ 生徒の実態に合わせた教材の作成により、生徒の課題に応じた教材のフォーマットを作成予定
- ⑦ 合格発表後の出身中学校との丁寧な引継ぎを実施